

わがまちの教育 (教育委員会)

豊かな環境ですくすく育つ子どもたち

市立保育園では、次の重点目標を定めて保育を行っています。

- ① 心身ともに健康な子どもを育てる
- ② 地域（小・中・高・家庭含む）との連携を図る
- ③ 生活リズムを身につける
- ④ 「すこやか子育てプラン」の推進

楠目保育園 (42人)

楠目小学校の東側にあり、少人数の家庭的な雰囲気のある保育園です。地域の人たちも園のことをいつも気にかけてくれ、園外保育に出かけると「絹さやができたき持って帰りや!」と声をかけてくれたり、竹の子やエンドウ豆等をいっぱいもらって帰ります。先日もエンドウ豆をさやごともらい、さつそく四・五歳児が皮をむき、豆ごはんを炊いて食べました。



地域の人からもらったエンドウ豆 (楠目保育園)

ほっかほっかの豆ごはんは、子どもたちにも大人気で、みんな交代わりをしています。た。「家では食べんのに」というお母さんの声もありましたが、友達との食事はまた別のようです。その後も小夏、ピワ、タマネギ、アスパラを次々にもらい、調理師さんがサラダやフライ等にしてくれました。地域への人の温かい思いやりと新鮮な食材、一手間かけた給食で、子どもたちも元気に成長しています。

山田保育園 (104人)

市役所から少し西の住宅地の中にある保育園です。0歳児保育(生後二カ月から)、延長保育をしています。みんなが健康で元気に遊べるように保育をしています。0歳児は、ゆったりと落

ち着いた環境の中で過ごせるようにして、子どもたちの笑顔を大切に、ひとりひとりと向かい合っています。離乳食も、家庭との連絡を密に健康状態を把握しながら、保育士・看護師・調理師が連携をもって進めています。

さくら保育園 (111人)

就学前教育の重点目標であった「すこやか子育てプラン」の推進、その中の保育サービスの一つである土曜一日保育が四月七日から始まりました。

社会情勢に合わせ、一日保育は保護者の切実な要望でもあり「一日保育が始まってとっても助かっている」「土曜は半日だったので、今まで託児所に預けていたが、その必要がなくなっうれしい」など、待ち望んでいた声がたくさん寄せられています。土曜日朝七時三十分から十八時三十分まで開園し

ており、常時四十〜四十五人の園児が登園し、異年齢の集団(幼児組と乳児組に分かれての保育)の中で、保育士とともに楽しい生活を送っています。

片地保育園 (46人)

当園は、近くに桜の名所の鏡野公園や物部川があります。

春には、雪ヶ峰での野いちご狩りに行ったり、秋には、どんぐりやまつぼっくりなど木の実を見つけにでかけたり、四季折々の自然あふれる環境に囲まれ、一歳児から五歳児までの子どもたちが、元気に伸び伸びと育っています。

また、高知工科大学の大学祭のセレモニーに毎年参加したり、七夕まつりやバザーの際には、片地小学校の児童や地域の方々が参加し交流を行っています。

じんざん保育園 (49人)

じんざんっこは、元気いっぱい遊んでいます。園では、体力作りの一環であるリズ

ム運動を取り入れ、天気の良い日は泥んこ遊びやびかだんご作り、散歩に出かけます。

また、園に隣接する高齢者福祉施設(とさや)またファミリア・ウエルプラザやまだ荘・好日館)の利用者の方々と四季折々の行事(七夕まつり、運動会、バザー、節分祭等)でお互いの施設を行き交い、園児の可愛い仕草に目を細め声援してくれています。園児たちも意欲的に活動に取り組み、交流を深めています。

美良布保育園 (120人)

0歳児から五歳児までが通う美良布保育園は、市役所香北支所の西隣にあり、園庭の木々に自然の恩恵を受けながら四季を過ごしています。園外に出ると東は菰生野、西は下野尻に公園があり、自然や人との出会いを楽しみながら散歩に出かけています。

また、年長組は稲を種蒔から育てることに挑戦しています。田植えをし、世話をして育てて収穫するまで

の発見やワクワクドキドキの貴重な体験ができそうです。無事、お米が収穫できたら「カレーパーティー」へ：と子どもたちの夢が膨らんでいます。

明治保育園 (34人)

明治保育園一带は田んぼが広がり、園舎は木々に囲まれ、広い園庭がある保育園です。

今年には園児数が少なくなりましたが、各年齢の子どもが一緒に遊んだりしてできるだけ交流を多くもっています。



老人クラブとの交流(明治保育園)

恵まれた自然環境を生かし、みんなで明治地区のあちこちに散歩に出かけます。冬の土手すべり・川干のときのぞぶりなど、季節ごとの遊びが広がっています。

昨年より、地域の老人クラブの方々と交流が始まりました。一月には、おじいちゃんの名人ごまを見せてもらったりして、楽しい一日を過ごしました。

双葉保育園 (15人)

香北町永野にある市内で一番小規模の保育園です。園周辺には、田畑やビニールハウスがあり、

おいしいお米や野菜のとれる豊かな自然に囲まれた環境にあります。

近くの老人ホーム白寿荘と夏は納涼祭、秋は運動会等の行事を合同で楽しみ、高齢者の方々と交流を深めています。地域の方々には、行事に参加していただく、園外保育

のときなどによく声をかけていただき、子どもたちも元気にあいさつや話をしています。たくさんの方々から温かく見守られ、ほのぼのとした雰囲気の園です。延長保育、園庭開放等も行っていきます。

大板保育園 (41人)

深い緑の山々に囲まれ、奥物部湖を一望する自然に恵まれた場所に位置し、木の温もりの伝わる木造の保育園です。毎年、園庭のミニ田んぼに田植えをし、秋には収穫してカレーパーティーを行うのが恒例でお楽しみの一つとなっています。

一月には五歳児が七草摘みに出かけ、本物の七草粥を作ってみんなで食べています。お散歩コースの孔雀小屋には子どもたちの安全のため、柵を取り付けてくださるなど、地域の方にも温かく見守られながら成長しています。

行事の中には、中学生や高校生との交流もあり、また地域や高齢者の方との交流として、やまびこ芸能祭、

七夕まつり、こづみ(高齢者福祉生活センター)訪問などを行っています。

新改保育園 (43人)

新改地区の自然豊かな環境の中にあり、園庭もとても広い保育園です。

子どもたちは、春には野いちご、いたどり、竹の子、秋には野山にしば栗、どんぐり拾いと自然を満喫しながら、散歩を楽しんでいます。本当に、自然の中にくさん遊び場がある地域です。そして、地域の人たちにとっても大事にされ、散歩をしているとよく声をかけられます。

また、毎週木曜日午前九時三十分から十一時三十分まで、園庭開放(どんぐり広場)を行っています。どろり広場では、普段は家庭にいる保護者と子どもさんが、保育の子どもたちと一緒に遊んだり、保護者同士で子育てについて楽しく話をしたり、職員が育児の相談にのったりしています。